

基本用語集について

基本用語とは大学教養教育程度以下の用語および一般気象用語(社会的気象用語)を指します。大学教養程度の教科書はここに挙げられている用語を用いて書けるということを意味します。またこの程度の用語であれば、文系の人も十分に理解可能であろうということで選定しています。

ただし一般気象用語については必ずしも十分な数を採録していません。気象学会ということで、多少なりとも学術的な用語を優先して採録しているためです。また局地風の名称なども一切採録していません。これらに関しては「用語集」を参照下さい。

「基本用語集」を「用語集」と別に設けたのには二つの意図があります。ひとつは、気象学会関係者・専門研究者以外の方にも多く利用していただきたいということです。基本的な概念をできるだけ平易に表現することを心がけました。今のところ意味が付けられていないので、なお使いにくいことがあると思いますが、将来は各用語に簡単な意味を付ける予定です。

ふたつ目の意図は、気象学会関係者・専門研究者に大学教養程度以下の教科書や本を書くときの参考にしてほしいということです。過度に専門的な用語を排除し、概念的にも表現的にも適切な用語を選択することは教科書にとってたいへん重要なことだと思われまます。本用語集によって、用語の適切さ・統一性が図られれば、気象学の啓蒙・普及という点で大きいものがあると思われまます。

上のような意図から、基本用語集は次のような方針のもとで作成しました。

(1) 英和において、ひとつの英語に対して、日本語化していないカタカナ書きのみの用語しか対応しないということではできるだけ避けるように配慮しています。一般の方にもできるだけハードルを低くする意味です。例外は、

bright band	ブライトバンド
downburst	ダウンバースト
hodograph	ホドグラフ
mesocyclone	メソサイクロン
plume	プリューム
thermal	サーマル
shear [line]	シアー[ライン]
wind profiler	ウィンドプロファイラ

などです。

(2) 英和において複数の用語(日本語)のある場合は、用語の順序が意味を持っています。順序に関するおおよその基準は以下の通りです。ただしいくつかの例外もありますので、絶対的なものでは

ありません。

まず第一の基準は、より一般性のあるものが前ということです。例えば、

temperature 温度，気温

としていますが、気温より温度が一般的なので前になっています。

第二に、一般性が同等である場合は推奨順になっています。例えば、

scale height スケール高度，スケールハイト

cloud cluster 雲クラスタ，クラウドクラスタ

となっています。両者はまったく同じですが、委員会としてはスケール高度と雲クラスタを推奨するという意味です。上の2つの例もそうですが、推奨順は学会レベルでの使用頻度とは異なる場合があります。意味がまったく同じで、かつ和語のほうが意味をとりやすい場合は、基本的には和語、またはそれを含むものを推奨しています。意味が必ずしもとりやすくない場合は使用頻度を考慮しています。例えば

climate system 気候システム，気候系

teleconnection テレコネクション，遠隔結合

です。気候系や遠隔結合という用語で意味がとりやすくなると思えないので、優先させていません。より一般的に使用される気候システムとテレコネクションが前になっています。さらに現在のところ、学術用語としてほとんど用いられていないものも推奨順が後位になっています。例えば、

severe storm 激しいストーム

severe weather 荒天

stormtrack ストーム経路

thunderstorm 雷嵐

などは委員会の造語に近いものです。従ってこれらの推奨順位は後位になっています。しかし一般の人にとってはこちらのほうが理解しやすい用語、ないしは現象に忠実な用語と思われるので、積極的に使用されることを期待しています。

以上をまとめると、まず、好みの問題を無視すると、(a)一般性が同等であれば、前の用語を使うことが無難です。ただし(b)後位ではあってもより意味がとりやすい用語を使っていただくことも委員会として推奨します。また当然ながら、(c)意味を限定して使う場合は、後のものを採用するほうがいい場合があります。例えば

stormtrack ストームトラック，ストーム経路，低気圧経路

となっていますが、もっぱら低気圧を扱う場合は最後の低気圧経路が適切だと思われます。

- (3) 和英において、複数の英語のある場合は、(2)のような強い意味は持っていませんが、前のほうが基本的にはより一般的である用語か、またはよく使われる用語になっています。